一六ノ二　檢査規程（但シ施行細則ヲ除ク）ハ定款中ニ規定ヲ設ケシムルコト
（大正六年二月二十日
商第二二〇二號次官通牒追加）

一七　違約處分トシテ徵收スヘキ過怠金ノ額ニ付テハ最高限度ヲ定メシムルコト

一八　加入金又ハ信認金ヲ納付セサル者若ハ過怠金ヲ納付セサル者ヲ更ニ違約處分ニ付シ過怠金ヲ徵スルノ規定ヲ設クルハ不可ナリ故ニ斯ル場合ニハ督促手數料ヲ徵スル等相當ノ徵收方法ノ規定ヲ設ケシムルコト

一九　違約處分ニ關スル費用ヲ被處分者ニ負擔セシメムトスル規定ヲ設クル場合ニ於テハ其ノ費用ノ範圍ヲ明記セシムルコト

二〇　組合解散ノ場合ニ於テ殘餘財産アリタルトキ又ハ組合財産ヲ以テ組合ノ債務ヲ完濟スルニ足ラサルトキハ如何ニ之ヲ處分スヘキヤノ規定ヲ設ケシムヘク若シ解散當時組合員タリシ者ニ分配若ハ分賦セシムトスル場合ニ於テハ分配若ハ分賦ノ方法ヲモ併セ規定セシムルコト

二一　定款ノ變更ヲ認可シタルトキハ新舊條文ヲ別紙ト爲スカ又ハ之ヲ交互ニ記載シ一見新舊ノ區別ヲ明瞭ニシ併セテ其ノ理由ヲ報告スルコト

○　物價ノ平準ヲ期シ國民生活ノ安定ヲ圖リ産業ノ發展貿易ノ振興ヲ策スルハ現下ノ急務ニシテ就中日常必需品價格ノ高低如何ハ國民生活ニ直接至大ノ影響ヲ與フルヲ以テ其ノ平調ヲ保持スルハ最モ緊要ノ事ニ有之候處昨年三年中旬財界ノ變動以來一般物價ハ漸次下落ノ趨勢ヲ辿レルニモ不拘小賣價格中ニハ依然トシテ曩日ノ高價ヲ維持シ甚シキニ至リテハ却テ漸騰ノ情勢ヲ示セルモノスラ有之勿論其ノ原因種々可有之候モ近時同業組合中私カニ販賣價格ヲ協定シテ不自然ニ物價ノ低落ヲ阻止シ不當ノ利益ヲ貪リツツアリトノ批難モ有之哉ニ聞及候ニ就テハ此際速ニ貴管下ニ於ケル各組合ノ詳細ノ內情御調査ノ上此種不都合ノ行爲アリト認メラルル組合ニ對シテハ重要同物産業同業組合法第十五條並ニ同施行規則第四十五條ニ基キ嚴重ニ之カ取締ヲ勵行相成樣特ニ御配慮相成度依命此段及通牒候也

追テ本件ニ關シ貴官ニ於テ執ラレタル措置ニ付テハ其都度回報相成度右申添候
（大正十年商第六六六
四號次官通牒追加）

第四　役員認可ニ關スル事項

役員ノ氏名、住所、職業、就任事由、年月日竝前者退任事由及其ノ年月日ヲ記載スルコト

第五　經費豫算竝徵收法ニ關スル事項

一　歲出豫算中各費目（豫備費ヲ除ク）ノ金額ヲ彼此流用スルヘ當初豫算ヲ設クルノ趣旨ニ反スルヲ以テ之ヲ流用スルコトヲ得サラシムヘシ但シ不得止必要アルトキヘ評議員會（評議員會ナキトキヘ評議員）ノ諮詢ヲ經同款同項目ノ金額ノミ流用スルコトヲ得

二　定額豫算內支出ニ充ツル爲必要ナル一時ノ借入金ニシテ其ノ年度內ノ收入ヲ以テ償還スルモノノ外往々經費ニ屬スル歲出ヲ借入金ヲ以テ支辨スルノ豫算アリト雖特別ノ場合ヲ除キ經常費ヘ經常收入ヲ以テ之ヲ支辨セシムルコト

三　借入金ヲ爲ストキヘ一時借入金ヲ除クノ外豫算ト共ニ借入ノ方法、利息ノ定率及償還ノ年度財源、其ノ他ノ方法ヲモ併セテ之ヲ議定セシムルコト

四　經費徵收法中ニヘ其ノ賦課ノ種目、賦課標準、課率竝徵收期限、其ノ他賦課徵收ノ方法ヲ記載セシムルコト

五　組合ノ負擔ニ歸スヘキ創立費ヘ必ス之ヲ豫算ニ編入セシムルコト

五ノ二　歲出豫算額ヘ可成事業費ヲ總豫算額ノ四割以上事務費ヲ「三割以下」會議費ヲ「一割以下」ト爲スコト

六　經費豫算式（大正七年九月三日商第一六九七七次官通牒追加）

何年度何々同業組合（聯合會）經費豫算

經常部

歲入

科目	本年度豫算額	本年度豫算額	對比增減	
			增	減
第一款　賦課金				
第一項　賦課金				
第一目　平等割				
第二目　等級割				
第三目　生產割				

附記

組合員何人一人年額何圓

一等何人一人年額何圓

二等何人一人年額何圓

一箇年生產總額何個一個何錢

第四目 何々
第二項 何々
第一目 何々
第二款 手數料
第一項 手數料
第一目 檢查手數料
第二目 證紙料
第三目 證票料
第四目 何々
第二項 何々
第一目 何々
第三款 補助金

檢查料何個分一個何錢
證紙何枚分一枚何錢
證票何枚分一枚何錢

第一項 補助金
第一目 道府縣補助金
第二目 郡市補助金
第四款 雜收入
第一項 雜收入
第一目 預金利子
第二目 過怠金徵收金
第三目 何々
第二項 何々
第一目 何々
第五款 過年度徵收金
第六款 繰越金

利率年何分
過年度未徵收金
前年度繰越金

歲出

科目	本年度豫算額	前年度豫算額	對比增減	附記
第七款 何々				
合計				
第一款 事業費				
第一項 檢查費				
第一目 俸給				檢查員俸給、月俸何圓何人
第二目 雜給				何人分內 月俸何圓何人
第三目 旅費				夜勤賄料何夜分一夜何錢
				人夫賃延人員何人分一人何錢
				檢查員旅費 日當何日分 宿泊料何夜分 汽車船賃何哩分 車馬賃何里分 一日何圓 一日何圓 一哩何錢 一里何錢

第四目 賞與				檢查員賞與何人分一人平均何圓
第五目 何々				
第二項 奬勵費				
第一目 表彰費				役員、職員、組合員、職工其ノ他使用人ノ表彰
第二目 講習及講話費				講師旅費何圓 會場設備費何圓
第三目 何々				
第三項 販路擴張費				
第一目 視察費				組合員何名何地視察旅費補助
第二目 廣告費				
第三目 何々				
第四項 試驗及調查費				

第一目	試驗費	
第二目	調查費	何々試驗器何圓、何々分析鑑定手數料何圓、技師招聘旅費何圓、報酬何圓
第三目	何々	何々調查囑託報酬
第五項	諸會議	
第一目	品評會費	會場設備費何圓、何々品評會出品費何圓、看守人手當何圓
第二目	競技會費	賞狀及賞品費何圓雜費何圓
第三目	何々	
第六項	取締費	
第一目	從業員取締費	從業者名簿調製費
第二目	貸業者取締費	貸業者名簿調製費
第七項	需用費	

第一目	備品費	檢查用器具購入及修繕料
第二目	消耗品費	檢查用藥品料
第三目	圖書及印刷費	檢查證印刷費何枚何圓參考用圖書何圓
第四目	通信運搬費	不合格品又ハ沒收品荷造料、運搬料
第五目	雜費	
第八項	何々	
第一目	何々	
第二目	何々	
第二款	事務費	
第一項	報酬及俸給	
第一目	役員報酬	組長報酬年額何圓、副組長報酬年額何圓、評議員報酬年額何圓

第二目 俸給	書記月俸何圓何人、雇員月俸何圓何人、臨時雇何人分一日何圓
第二項 雜給	
第一目 旅費	役員職員（內譯ハ檢查員旅出張旅費（費ニ準ス
第二目 傭人料	小使何人月額何圓、給仕何人月額何圓、臨時人夫延人員何人分一人何錢、小使給仕賞與何人分一人平均何圓
第三目 賞與	職員賞與
第四目 賄料	役員、職員、小使、給仕夜勤賄料、役員、職員何夜分一夜何錢、小使、給仕何夜分一夜何錢
第五目 何々	
第三項 需用費	
第一目 備品費	卓子何脚何圓、椅子何脚何圓、組合印何個何圓、謄寫版何臺何圓、時計何個何圓肉池何個何錢

第二目 消耗品費	事務用紙何枚何圓、筆墨印肉何圓、電燈料何圓、謄寫版原紙及印肉何圓
第三目 圖書及印刷費	參考用圖書（諸規則等）何圓印刷賃何圓
第四目 通信運搬費	郵便料何圓、電信料何圓、電話料何圓、運搬賃何圓、荷造料何圓
第五目 雜費	
第六目 何々	
第四項 雜支出	
第一目 保險料	
第二目 借地借家料	地代、借家料月何圓
第三目 證票費	組合員證調製費何枚分一枚何圓
第四目 交際費	
第五目 修繕費	

第六目	諸稅	
第七目	何々	
第五項	何々	
第一目	何々	
第三款	會議費	
第一項	組合會（總會）費	會議諸費何回分一回何圓 代議員旅費何人分一人何圓
第二項	評議員會費	第一項ニ準ス
第三項	役員會費	
第四款	負擔金	
第一項	聯合會負擔金	
第二項	其他負擔金	
第五款	積立金	
		地租何圓、附加稅何圓

第六款	何々	
第一項	何々	
第一目	何々	
第七款	豫備費	
合計		

備考

〔一〕歲入及歲出ヲ經常、臨時ノ二部ニ區別スルハ適宜トス

〔二〕檢查費ハ（一）檢查員給料（二）檢查員旅費其ノ他ニ區別シ記載スルコト

〔三〕豫算ノ參考トシテ別ニ說明書ヲ付シ款每ニ本年度豫算額、前年度豫算額、對比增減ノ事由ヲ說明スルコト

〔四〕附說欄ニハ上欄ノ科目ニ對スル本年度豫算額ノ計算ノ基ク所ヲ詳細ニ記載スルコト

〔五〕豫算ノ變更ヲ要スルトキハ「本年度豫算額」ノ欄ヲ「追加(更正)豫算額」トシ「前年度豫算額」ノ欄ヲ「既定豫算額」トシ「附記」ノ欄ニハ追加(更正)豫算額ノ計算ノ基ク所ヲ記載シ別ニ說明書ヲ附シ對比增減ノ事由ヲ說明スルコト

第六　經費決算及業務成績ニ關スル事項

(一)　決算式ハ豫算式ニ倣ヒ「本年度豫算額」ノ欄ヲ「決算額」トシ「前年度豫算額」ノ欄ヲ「豫算額」トシ「附記」ノ欄ニハ上欄ノ科目ニ對スル決算額ノ計算ノ基ク所ヲ詳細ニ記載シ別ニ說明書ヲ以テ對比增減ノ理由ヲ說明スルコト決算上剩餘金ノ處分及不足額ニ對スル支出ノ方法ハ決算書ニ之ヲ附記スルコト

(二)　業務成績記載事項

何年度何々同業組合(聯合會)業務成績

(一)　組合員數

營業別	本年度	前年度	對比增減		附記
			增	減	
合計					

(二)　生產、製造又ハ販賣ノ數量竝價額

本年度					前年度					對比增減			
營業種類別	生產製造又ハ販賣數量	價額	單價	內地向	營業種類別	生產製造又ハ販賣數量	價額	單價	內地向	增		減	
										數量	價額	數量	價額

總計	輸出向			
	計			

備考

（一）生産、製造又ハ販賣業者ヲ以テ組織スル組合ニ在リテハ生産、製造又ハ販賣ノ數量竝價額ハ之ヲ別表ニ記載スルコト

（二）■内地向製品ニ付テハ仕向先及數量、輸出製品ニ付テハ其ノ輸出先數量ヲ各種類別ニ附記スルコト

（三）營業品ノ檢査成績

檢査品種類	檢査總數量	檢査成績 合格	檢査成績 不合格	檢査員數 常時	檢査員數 臨時	檢査延日數
内地向						
内地向 合計						
輸出向						
輸出向 合計						
總計						

備考

〔一〕營業品ニ付等級ヲ定ムル組合ニ在リテハ合格欄ニ等級別ニ數量ヲ記載スルコト但シ定款所定ノ最低限度ニ達セサル製品ハ不合格欄ニ記載スルコト

〔二〕不合格品ニ付テハ其ノ主因及不合格品ノ處分ノ狀況ヲ記載スルコト

(四)檢査施行ノ狀況及檢査ノ營業品ニ及ホシタル效果

(五)組合經費徵收ノ情況竝滯納額、滯納者ニ對スル處分ノ顯末

(六)違約處分ヲ爲シタル員數、處分ノ種類及其ノ事由

(七)仲裁判斷若ハ調停ヲ爲シタル事由及顯末

(八)組合未加入者ニ對シ訴ヲ提起シタルトキハ其顯末

(九)組合ヲ組織セル營業ニ關スル商況

(一〇)以上ノ外業務執行ノ情況及其ノ成績ヲ認ムルニ付必要ナル事項

(一一)年度末現在(事業年度)基本財産(積立金)高及其ノ內譯竝信認金ヲ徵スル組合ニ在リテハ其ノ總額

備考

前記一號乃至一一號中該當スヘキモノナキ組合ニ在リテハ其ノ旨ヲ明示スルコト

營業其ノ他ノ物產ニ關シ組合又ハ聯合會ニ於テ調製シタル統計ハ業務成績ニ添付スルコト

5　重要物產同業組合及同聯合會ノ商品ノ價格協定ニ關スル件

（昭和八年十一月十四日　商第七七五三號商工次官通牒）

重要物產同業組合ニ於ケル商品ノ價格協定ニ關シテハ大正五年六月二十九日附商第八九九號及大正十年八月十九日附商第六六六四號ヲ以テ通牒ノ次第モ有之候處當省所管ノ同業組合ニ付テハ外國貿易ニ關係ナキ場合ニ於テモ賣崩ノ弊ヲ防ク爲必要ナルトキハ商品ノ價格協定ヲ爲スコトヲ得シムルコトト相成候ニ付テハ自今左記各項ニ依リ御取扱相成度尙價格協定カ賣崩ノ弊ヲ防止スルノ趣旨ヲ逸脫シ消費者及當該產業ト密接ナル利害關係ヲ有スル產業ノ公正ナル利益ヲ害スルコトナカラシムル樣充分留意相成リ苟モ價格協定ヲ不適當

ト認ムルトキハ遲滯ナク監督上必要ナル措置ヲ講セラレ度依命此段及通牒候也

記

一　同業組合ニシテ商品ノ價格協定ヲ爲スモノニ付テハ協定ノ品目方法其ノ他價格協定ニ關スル大綱ヲ定款中ニ記載セシムルコト

二　價格協定ヲ行フニ必要ナル定款ノ變更ヲ認可セントスルトキハ價格協定ヲ必要トスル事由、協定ノ品目、方法其ノ他價格協定ノ施行概要ヲ具シ豫メ本省ニ打合ヲ爲スコト

三　價格協定ノ適正ヲ期スル爲定款ヲ以テ組合員ノ外適當ナル利害關係者及學識經驗アル者ヲ以テ組織スル委員會ヲ組合ニ設ケシメ價格ノ決定其ノ他價格協定ニ關スル重要事項ニ付テハ其ノ意見ヲ徵セシムルコト

四　協定價格ヲ一律ニ强制スルコトハ適當ナラサル場合アルヘキニ付斯ル場合ニハ之ニ關シ相當例外規定ヲ定款中ニ設ケシムルコト

五　協定價格ニハ特別ノ事情アル場合ヲ除クノ外相當ノ有效期間ヲ附シ且其ノ期間內ト雖モ原價ノ低落其ノ他ノ事由ニ依リ其ノ價格カ不適當トナリタルトキハ遲滯ナク之ヲ變更スヘキ旨定款ヲ以テ規定セシムルコト

六　定款ノ規定ニ基キ價格協定ヲ行フ場合ニハ之カ施行ニ關スル規則ヲ定メ地方長官ノ承認ヲ受ケシムルコト其ノ規則ヲ變更スル場合亦同シ

七　協定價格ヲ定メタルトキハ其ノ都度遲滯ナク地方長官ニ屆出テシムルコト

二　同業組合法研究資料

同業組合準則施行せられてより五十餘年、同業組合法となりても既に三十餘年である。其の間主務省の通牒、裁判の判例等研究資料多かるべきも之を取纏めたるものが見當らぬ。左記は廢止又は變更せられたものあるも、當時の事情を知るべき參考資料である。

一、同業組合準則ノ適用範圍（明治十八年八月達三五號
同　三十年六月訓令第一五號ヲ以テ廢止）

明治十七年達第三五號同業準則ハ專ラ管下重要物產ノ改良蕃殖ニ關スル農商工業者ノ組合ニ限リ適用ス

二、準則組合ノ存置理由ト同準則中第四條改正（明治三十年五月
省令第六號）

明治十七年十一月農商務省第三十七號達同業組合準則中第四條ヲ削除ス

右經伺理由

本準則ニ依リ現ニ組合ノ成立シ居ルモノ一千有餘ニ上リ今之ヲ全廢スルモ啻ニ紛雜ヲ來スノミナラス實際之ニ依リ幾許カ效益ヲ收ムルモノ有之ニ付良計ニ無之ト被存候唯其ノ第四條ハ四分ノ三ノ同意ヲ以テ四分ノ一ノ不同意ヲ强制スルモノニシテ同業組合法發布ノ今日ニ在リテハ不都合ニ付同樣削除ノ上暫ク存置可然哉

三、同業組合準則適用範圍ニ關スル明治十八年達第三五號廢止訓令（明治三十年六月
訓令第一五號）

明治十八年八月本省達第三十五號ヲ廢止ス

右經伺理由

本達ハ專ラ管下重要物產ノ改良蕃殖ニ關スル農商工業者ノ組合ニ限リ適用スヘキ儀ト心得ヘキ旨府縣ヘ達シ相成候處今般重要輸出品同業組合法發布ノ結果同業組合準則第四條ヲ削除セラレテ地區內同業業者ニ對スル强制ヲ解キ組合ハ四分ノ三以上ノ同業者カ任意契約ニ由テ組織スルコトトナリタル今日ニ於テ組合準則ノ適用ヲ專ラ重要物產ノ蕃殖改良ニ關スル農商工業者ノ組合ニ限ルノ必要ナク又右第三十五號達ノ效力ヲ有スル他府縣ノ產物ヲ取扱フ商業者ニ對シテ準則ヲ適用スルヲ得サルノ不便アリ且ツ其ノ適用方ニ付テモ各府縣寬嚴ヲ異ニスルノミナラス實際ニハ殆ンド勵

行セラレザル姿ニテ其ノ存在ノ必要ヲ認メサルノミナラス各府縣ヨリ其ノ廢止方ヲ申出テタル向モ有之旁右第三十五號達ハ廢止相成候方可然

四、同業組合ハ民法法人ニ關スル規定ノ適用ヲ受ケザルガ故ニ發記ヲ要セズ（明治三十二年四月 商工局長回答）

重要輸出品同業組合法ハ特別法ニシヲ一般法タル民法法人ニ關スル規定ノ適用ヲ受クヘキモノニ在ラス殊ニ民法施行法ニ依ルモ民法施行以前ヨリ獨立ノ財產ヲ有スル社團又ハ財團ハ法人ト看做シ登記ヲ要スヘキ旨ヲ規定スルモ特別法ニ依リ成立セル法人ニ付テハ何等ノ規定ナシ故ニ民法法人ニ關スル規定ヲ適用セス從テ登記ヲ要セス司法省ニ於テモ登記ヲ要セストノ見解ナリ

五、同業組合ハ國家ニ對シ國家事務ヲ行フノ義務ヲ負ハサルカ故ニ其ノ法律上ノ性質ハ私法人ニ屬ス公法人ハ國家事務ヲ行フノ義務ヲ國家ニ對シテ負フモノナルコトハ學者ノ定論ニシテ強制加入ノ有無ハ公法人ノ要素ニ在ラス組合法中(一)檢查規定ヲ設ケシムヘキコト(二)經費豫算ノ徵收ニ付認可ヲ要スヘキコト(三)官廳ノ諮問ニ對シ調查報告ヲ爲スヘキコト等ヲ規定スルモ是等ハ監督上ノ必要又ハ公益上ヨリ出タルモノニシテ所謂行政權ノ主體ト看做シタルモノニ在ラス而シテ同業組合ハ同業者カ營業上ノ弊害ヲ矯正シ信用ヲ保持スルヲ目的トシ直接ニハ同業者ノ利益ヲ計リ間接ニ公益ノ利益トナルニ過キス故ニ其ノ性質ハ民法ニ所謂公益ニ關スル私法人ニ屬スベキモノトス（明治三十二年七月 商工局長回答）

六、同業組合法ハ外國人ニ對シテモ之ヲ適用スルモノトス

同業組合法適用上特ニ本邦人ニ限ルベキ規定ナキヲ以テ改正條約實施後ニ於テハ當然之ヲ外人ニ適用ン組合加入ノ義務ヲ負ハシムモノトス然レドモ外人ハ風俗人情風俗商習慣ヲ異ニスルヲ以テ特別ノ狀況アル場合ニハ本法第四條ニ依リ加入除外ヲ認ムルモコトアルハ勿論トス

七、準則組合ハ民法ニ依リ主務官廳ノ許可ヲ得テ法人ト爲スコトヲ得ス（明治三十三年五月 商工局長回答）

營業上ノ弊害ヲ矯正シ利益ヲ增進スルヲ以テ目的トスル社團ニ對シテハ特ニ同業組合準則及重要物產同業組合法ヲ發布セラレ居ルガ故ニ此ノ種ノ社團ハ同業ニ依リ設立セシムルヲ以テ最法令ノ趣旨ニ適合シ且ツ其ノ目的達成上亦最良ノ方法ナルヲ以テ民法

ニ依ル法人設立ノ許可ヲ與ヘサル方可然

八、定款ノ變更、豫算、徵收法、役員選擧等ヲ評議員會ノ權限トシテ定款中ニ規定スルハ穩當ニ在ラス（明治三十三年五月參事官會議決議）

同業組合法ノ規定ニ依リテハ評議員ハ組長ノ補佐及監督ノ機關ナルガ故ニ違約處分ノ如キハ評議員ノ權限トスルモ敢テ支障ナシト雖總會若ハ之ニ代ルヘキ機關ニ於テ議決スルヲ要スル定款ノ變更、豫算竝ニ徵收法ノ決定、又ハ役員ノ選擧等ヲ其ノ權限トスルハ穩當ニ在ラス若シ從來認可シタル定款中以上ノ事項ヲ規定シタルモノアルトキハ漸次之ヲ改正セシムベキモノトス

九　創立總會ニ於テ役員ヲ選擧セス且ツ定款中第一回ノ役員ヲ選擧スベキ總會ノ招集者ヲ定メサルトキハ組合設置ノ認可ヲ爲スヘキモノニ在ラス（年月不明參事官會會議決議）

組合設置認可後總會カ設立セラレタル場合ニ於テ定款ニ何等ノ規定ナキニ拘ラス發起人カ當然總會招集ノ權限ヲ有スト云フハ法理上ノ根據ニ乏シ故ニ創立總會ニ於テ役員ヲ選擧セサル場合ニ於テ定款中第一回ノ役員ヲ選擧スヘキ總會ノ招集者ヲ定メサルトキハ設置ノ認可ヲ與フモノニ在ラス

役員就任認可報告書ニ記載スヘキ事項（明治三十四年十二月商工局長通牒）

役員ノ認可ニ在リテハ役員ノ氏名、住所、職業、就任年月日、事由、認可年月日、前任役員退任事由及其ノ年月日ヲ記載相成度（參照）組合法第八條、同施行規則第四十五條、第四十六條

一一、組合事務所ハ之ヲ地區外ニ設置スルコトヲ得（明治三十六年二月商工局長回答）

組合地區ハ組合員タルモノノ範圍ヲ限定スルニ過キス加之法令中事務所位置ヲ地區內ニ限リタル特別ノ規定ナキヲ以テ組合事務執行上必要ナル場合ニ於テハ之ヲ地區外ニ設置スルヲ妨ケス

一二　準則組合ハ同業組合準則ニ依リ解散ヲ命スル權能ヲ有セス（明治三十七年一月商工局長回答同四十三年三月農務局長同）

準則組合ハ假令組合ノ圓滿ヲ缺キ到底其ノ目的ヲ達スルコト能ハサル場合ト雖本組合ニ關スル府縣令中解散ニ關スル規定ナキトキハ同業組合準則ニ依リ解散ヲ命スルノ機

能ナキモノトス

一三　準則組合規約認可權ニ伴フ當然ノ權限トシテ地方長官ハ準則組合規約ノ認可取消權ヲ有スヘキモノトス（明治三十七年二月商工局長回答）

組合規約取消權ニ付テハ準則中具段ノ規定ナキモ當初認可シタル目的ニ違背シ又ハ公益ヲ害スル場合ニ於テハ認可權ニ伴フ當然ノ權限トシテ之カ認可ヲ取消シ得ヘキモノトス

一四　組合總會又ハ之ニ代ルヘキ機關ノ權限ニ屬スヘキ事項中監督官廳ノ認可ヲ要セサルモノニ限リ其ノ決議ヲ以テ之ヲ評議員會ニ委任スルコトヲ得（明治三十七年四月省議決定次官通牒）

總會又ハ委員會ハ議決機關、評議員會ハ組長ノ諮問及監督ノ機關ナルヲ以テ劃然之ヲ區別スルニ非サレハ弊害ヲ生スルモノトシ總會若クハ委員會ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ決議ニ依ルモ之ヲ評議員會ニ委任スルヲ得サルコトニ決定シ居ルモ組合ノ實況ニ徵スルニ輕易ナル事項ニ付テモ總會又ハ委員會ヲ開催セサル可ラサルモノトセハ費用及手數ノ點ニ於テ困難ナル事情アリ組合事務運用上不利不勘故ニ總會又ハ委員會ノ決議事項中各個ノ場合ニ於テ監督官廳ノ認可ヲ要セサルモノニ限リ其ノ決議ヲ以テ評議員會ニ委任スルヲ得ルコトニ省議決定可然哉

一五　組合基本金管理ノ爲國庫債券ニ應募スルハ妨ナキモ之カ爲豫算ヲ變更シ債券應募ノ科目ヲ新設スルハ穩當ナラス（明治三十七年四月商工局長回答）

一六　組合法第四條但書ノ場合ヲ具體的ニ說明スルハ困難ナルモ單ニ外國人タルノ故ヲ以テ營業上特別ノ情況アルモノトハ認メ難シ（明治三十八年六月商工局長通牒）

一七　同業組合ハ地區外ニ於テ自己ノ組合員ノ營業品ニ對シ檢査ヲ行フモ違法ニ非ス（明治四十一年十二月商工局長回答）

一八　監督官廳カ行政處分トシテ定款ノ變更ヲ命シタル場合ニ於テハ組合總會ニ於テ更ニ定款變更ノ決議ヲ爲スヲ要セス（明治四十三年農第一、六六八九號產業組合ノ定款變更ニ關スル農務局長回答）

定款ノ變更ニ付「何々ト變更ス」又ハ「何々ト變更スヘシ」ト謂フカ如ク監督官廳カ行政處分ヲ爲シタルトキハ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要セサルヲ以テ特ニ定款中ニ「監督官廳ノ命令ニ依ル定款ノ變更ハ總會ノ決議ヲ待タスシテ變更スルコトヲ得」トノ規

定ヲ設クルノ要ナシ然レトモ「相當訂正スヘシ」ト謂フカ如キ處分ヲ爲シタルトキハ組合ハ總會ノ決議ヲ經テ定款ヲ變更シ且ツ地方長官ノ認可ヲ經ルコトヲ要スルカ故ニ此ノ如キ場合ニ對シ「總會ノ決議ヲ經スシテ定款ヲ變更スルコトヲ得」ヘキ規定ヲ設クルハ違法ナリ

一九　製品ノ檢査ハ組合員カ假令組合經費ノ納入ヲ怠リタルトキト雖之ヲ施行セサルヲ得ス（明治四十二年六月　商工局長回答）

製品檢査ハ粗製濫造ノ弊害ヲ矯正スヘキ手段ニシテ組合員ハ檢査ヲ受クルニ非サレハ製品ノ賣買授受ヲ爲スコトヲ得ス從テ檢査ノ停止ハ一時營業ヲ禁止スルト同一ノ結果トナルカ故ニ假令組合經費ヲ滯納シタル場合ト雖モ其ノ檢査ヲ行ハサルヲ得ス

二〇　精算人ノ選定ニ付テハ法令中別段ノ規定無キカ故ニ組合員ニ非サル者ヲ選任スルコトヲ妨ケスト雖可成組合員中ヨリ選任スルヲ適當ト認ム（明治四十二年八月　商工局長回答）

二一　異種類ノ同業組合ハ聯合會ヲ組織スルコトヲ得ス（明治四十三年一月　工務局長回答）

聯合會ハ組合相互ノ氣脈ヲ通シ共同ノ目的ヲ達スルコトヲ其ノ目的トスルモノナルカ故ニ之ヲ法ノ精神ニ照シ組合本來ノ目的ニ徵スルモ同種類ノ物產ニ關スル組合ニ非サレハ之ヲ設置スルコトヲ得ス

二二　組合又ハ聯合會ノ部又ハ業務ノ種別ニ依リ各會計ヲ區別シタ別異ニスル場合ト雖豫算及徵收法ノ認可申請及決算又ハ業務成績ノ報告ニ關スル書類ハ組合每ニ調製ノ上提出スルヲ要ス

二三　注文主ノ專用ニ供スヘキ寫眞ノ撮影業者ハ組合法ニ依ル同業組合ヲ組織スルコトヲ得サルモノトス（明治四十三年三月　次官依命通牒）

繪葉書用寫眞、寫眞製版等ヲ製造販賣スル者ノ外注文主各自ノ專用ニ供スヘキ人物寫眞ハ商品トシテ廣ク各地ニ販賣セラルルモノニ非サルカ故ニ之ヲ以テ法律ニ所謂物產ト認ムルコトヲ得ス從來設置ノ認可ヲ受ケサル組合ノ內本業ト稱其ノ業態ノ類似セルモノハ洋服商工同業組合及印刷同業組合ニシテ二者共ニ其ノ組合員ハ注文主各自ノ專用ニ供スヘキ物品ヲ取扱フコト敢テ本業ト大差ナシト謂フ普通商品トシテ各地ニ販賣スル數量亦甚タ多ク之ノミヲ以テ優ニ重要物產ト謂フコトヲ得ヘキノミナラス注文品

ニ在リテモ其ノ大部分ハ之ヲ市場ニ販出シテ取出ノ目的ニ供スルコトヲ得ヘキ性質ヲ有スルヲ以テ此ノ點ニ於テモ寫眞業トハ大ニ其ノ趣ヲ異ニスヘキモノト謂フヘシ

二四　同業組合準則第一條ニ所謂農商工業ニ從事スルモノトハ農商工業ヲ營ム者ノ謂ニシテ營業使用人ハ同準則ニ依リ組合ヲ組織スルコトヲ得サルモノトス（明治四十三年八月工務局長通牒ヘ依命）

二五　同業組合ノ役員及職員ハ刑法ニ所謂公務員ニ非ス（明治四十三年八月工務局長通牒）

同業組合ハ公法人ニ非サルカ故ニ其ノ業務ニ從事スル役員及職員ハ刑法ニ所謂公務員ニ非ス又其ノ職務ヲ行フ場所ハ公務所ニ非ス

二六　部會及部長ノ權限（明治四十四年十月工務局長照會）

組合ノ業務施行ニ便スル爲部會及部長ヲ設クルハ可ナリト雖モ各部ノ豫算、決算又ハ經費賦課徵收法若ハ基本財產ノ積立處分等ニ關スル事項ヲ部會ニ於テ決議シ部ノ名ニ於テ施行セムトスルハ不可然義ニ付是等ノ事項ハ組合會又ハ評議員會ノ承認ヲ經組合ノ名義ヲ以テ之ヲ施行スルコトヲ要ス

二七　代議員及總會ニ於ケル表決權ニ差等ヲ設クルコトヲ得ルヤ（明治四十四年二月省議決定）

組合會ノ營業ニ甚シキ懸隔アリ又其ノ經費負擔ニ著シキ等差アル場合ニ於テ代議員ノ選擧權ヲ平等トスルハ卽チ公平ヲ失シ惹テ組合內部ノ圓滿ヲ缺キ其ノ活動ヲ阻害スルノ虞アリ殊ニ民法ニ於テ公益ヲ目的トスル社團法人ノ社員ノ表決權ハ平等ヲ原則トスルモ定款ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ妨ケサルカ故ニ等差ヲ設クルハ必スシモ不穩當ニ非スシテ從來同業組合ノ定款中組合員ノ代議員選擧權箇數ニ等差ヲ設クヘキ規定ヲ認可シタル事例アリ然レトモ同業組合ハ組合員ノ一致協同ニヨリ營業上ノ弊害ヲ矯正シ其ノ利益ヲ增進セムトスルモノナルカ故ニ組合員ノ權利ニ等差ヲ附スルハ穩當ナラス殊ニ地區內同業ノ加入ヲ强制スルヲ以テ加入ニ付自由意志ヲ基礎トセル民法上ノ公益法人トハ大ニ其ノ趣ヲ異ニスルモノアリ從テ民法公益法人ニ關スル例ヲ以テ同業組合ヲ解釋セムトスルハ妥當ナラス加之若シ等差ヲ認ムトセハ少數ノ大營業者カ多數ノ小營業者ヲ壓迫スル弊害ヲ生スヘキ虞アリ依テ爾今同業組合ノ定款中代議員ノ選擧權及總會ニ於ケル表決權其ノ他組合員ノ權利ヲ認ムヘキ規定ハ之ヲ認可セサルコトニ決定セムトス

右ニ對スル反對意見（決定）

イ、代議員ノ選擧、總會ニ於ケル表決其ノ他ニ關スル權利ニ就テハ重要物産同業組合法ニ何等ノ規定ヲ存セス之ヲ定款ノ定ムル所ニ委シタルハ蓋シ各地方夫々産業狀態ヲ異ニスルモノアルノミナラス民情亦自ラ一樣ナラサルモノアルヲ以テ一定ノ條規ノ下ニ律シ難キヲ慮リタルモノト解スルヲ得ヘク實際ノ事情ニ照シ經費負擔額其ノ他ニ應シ組合員ノ權利ニ相當ノ等差ヲ設クルハ法ノ認容スル所ニシテ必スシモ不穩當ナリト謂フヲ得ス

ロ　組合員ハ孰レモ組合ヲ組織スル要素タルニ於テ異ナル所ナシト雖モ各自營業ノ大少ニ依リ利害關係自ラ一樣ナラス卽チ大營業者ハ多額ノ經費ヲ負擔スルノミナラス組合ノ施設如何ニ依リ其ノ營業上ニ及ホスヘキ利害關係モ亦大ナルカ故ニ常ニ組合ノ改善發達ニ努ムルノ意アリト認ムルコトヲ得ヘシ之ニ反シテ小營業者ハ組合ノ存否カ其ノ營業上ニ及ホスヘキ影響僅少ナルヲ以テ組合ニ對スル觀念極メテ冷淡ナルノミナラス概ネ目前ノ勝利ニ吸々トシテ組合永遠ノ目的ヲ解セサルモノ多カルヘキハ自然ノ數タルヘシ故ニ若シ組合員ノ權利ニ等差ヲ設ルノ規定ヲ絕對ニ認メサルトキハ小營業者多數ノ組合ニ在リテハ大營業者ノ意見ハ往々ニシテ小營業ノ壓スル所トナリ延テ組合ハ其ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設經營ヲ爲ス能ハサルニ至ルノ虞アルヲ以テ能ク實際ノ事情ヲ斟酌シ適當ノ制限ヲ超エサル範圍ニ於テ權利ノ行使ニ等差ヲ設クルハ却テ專宜ニ適スルモノト認ム

二八　組合ニ於テ製品工賃ノ等位ヲ定ムルハ產業ノ自由ヲ妨害スルノ弊ヲ生スル虞アルヲ以テ如斯定款ノ規定ハ之ヲ無制限ニ認容スヘキモノニ非ス（明治四十四年十一月大臣ノ變更命令）

某組合ハ其ノ定款中ニ製品工賃ノ等位鑑定ニスル規定ヲ設ケ工賃評定會ノ定メタル標準ニ基キ鑑定所ハ製品ノ等級ヲ附シ組合員ハ工賃ノ支拂ニ付キ鑑定所ノ附シタル等級及工賃評定會ノ定メタル工賃ニ束セラレ且以上ノ條件ヲ附セスシテ製作ノ委託ヲ爲スヘカラサル事ヲ定メタリ如斯規定ハ產業ノ自由ヲ妨害スルノ弊ヲ生スル虞アルヲ以テ無制限ニ之ヲ認容スヘキセノニ非ス

二九　一ノ同業組合カ同時ニ二以上ノ聯合會ノ組織組合タル事ヲ妨ケス（明治四十五年六月工務局長回答）

三十　組合員ノ使用スヘキ製品ノ原使料ヲ一定地域ノ製産品ニ限定スルハ穩當ナラス故ニ使用原料ノ具備スヘキ品質ノ標準ヲ定ムヘキ程度ノ規定ニ變更セシムルヲ要ス

（明治四十四年二月工務局長通牒）

三一　組合員五名以内ノ大字ニ於テハ（現行代議員）ヲ選出セシメサルハ組合員ノ表決權ヲ奪フノ結果ニ歸着スルヲ以テ如斯定款ノ規定ヲ設クルハ不穩當ナリ

（明治四十四年二月工務局長通牒）

三二　準則組合ト雖モ組合ニ於テ販賣價格ヲ一定スヘキ規約ヲ設クルハ穩當ナラス

（明治四十四年八月、十二月）（之ニ異リタル通牒アリ後掲）

準則組合ノ加入脫退ニ付テハ特ニ法律上ノ制限ナシト雖モ事實上組合對組合員ノ關係ハ同業組合カ其ノ組合員ニ於ケル關係ト酷似スルカ故ニ規約中ニ價格ヲ一定スヘキ規定ヲ設クルハ公益上弊害ヲ生スヘキ虞アルヲ以テ相當變更ヲ要ス

三三　組合ノ狀況ニ依リ弊害ヲ生スル虞無シト認ムル時ハ議員（現行代議員）ヲシテ組合全般ノ事務ニ關係アル役員以外ノ役員ヲ兼ネシムル事ヲ得

（明治四十二年七月農第七六九二號）

議員ヲシテ役員ヲ兼ネシムルニ於テハ議長ヲシテ能ク組合事業ノ緩急利害ヲ辯識シ協力事ニ當ラシメ自然兩機關ノ軋轢ヲ防ク事ヲ得ヘク恰モ市町村制ニ於テ市町村會議員ヲ兼ネシムルト異ル所無シ故ニ組合ノ狀況ニ依リ弊害ヲ生スルノ虞無シト認ムルトキハ議員ト組合全般ノ事務ニ關係アル役員以外ノ役員即組合各部ノ部長トヲ兼務セシムルモ妨ナシト認ム

反對意見（不採擇）

組合會議ハ組合員總會ニ相當スルモノニシテ役員ノ業務執行財産管理等ニ付監督者ノ地位ニ在リ若シ議員ヲシテ役員ヲ兼ネシムルニ於テハ自己ノ行爲ヲ自己ニ依リテ監督スルノ結果ヲ生スヘシ殊ニ本組合ノ各部長ハ組合ノ指揮命令ヲ受クヘキ役員ニシテ組合會議員ハ各部一人ヲ選出スルカ故ニ全組合會議員ハ一人ノモレ無ク皆組長ノ下ニアル役員ナリ從ツテ監督其ノ他重要事項ノ決定ハ事實上之ヲ役員ノ專斷ニ放任スルニ異ナラス故ニ本件定款ノ變更ハ認可スヘキモノニ在ラス

三四　蠶絲業法施行前重要物産同業組合法ニ依リ設置シタル蠶絲業ニ關スル同業組合聯合會ハ該法施行後ト雖モ同業組合法ニ依リ依然存續ス（明治四十五年一月省議決定）

三五　蠶絲業法施行後ハ本法ニ依ルニ非サレハ蠶絲業同業組合聯合會ヲ設置スル事ヲ得ス（明治四十五年一月省議決定）

三六　重要物産同業組合法ニ基キ設置シタル蠶絲業ニ關スル同業組合聯合會ハ蠶絲業法ニ依リ其ノ設置ヲ改ムルニ非サレハ蠶絲業同業組合中央會ニ加入スヘキ資格ナキモノトス（同　上）

三七　支配人登記簿ニ登記セラレタル會社支配人ハ會社ヲ代表シテ役員ノ職務ヲ行フコトヲ得（明治四十五年三月工第八六五號工務局長通牒）

法人カ組合役員ニ選任セラレタル場合ニ於テハ會社ノ代表機關ハ當然組合役員ノ職務ヲ執行スル事ヲ得ルハ言ヲ俟タス而シテ支配人ハ會社ノ代表機關ニ非スト雖モ法律上主人ニ代リ其ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲スヘキ權限ヲ有シ委任ニ依ル代理ト其ノ趣ヲ異ニスルカ故ニ組合役員ノ職務執行ニ關シテハ便宜之ヲ會社代表機關ト同樣ニ取扱ヒ役員ノ職務ヲ行ハシムルモ敢テ支障ナシト認ム

三八　準則組合ノ加入及脫退ハ當業者ノ任意ナルカ故ニ地方長官ニ於テ特ニ弊害ヲ生スヘキ處無シト認ムル場合ハ其ノ規約中販賣價格又ハ賃金ノ一定ニ關スル規定ヲ設ケ之ヲ強制セシムルモ妨ナシ（大正元年十月省議決定）（第三十二項參照）

三九　同業組合法第五條ニ所謂地區內ノ同業者トハ組合地區內ニ營業所ヲ有シ同一ノ業ヲ營ム者ノ謂ニシテ隨時地內ニ來リテ組合員ト同一營業品ノ行商ヲ爲ス者ヲ包含セス然レトモ行商ヲ爲ス者ト雖モ地區內ニ事實上營業所ヲ有スル者ト認メ得ヘキ場合ニ於テハ組合ニ加入ノ義務アルモノトス（明治四十五年第一二七號　大正九年八月五日大審院民事部決定）

決　定

原決定ヲ廢棄シ更ニ裁判ヲ爲スヘキ事ヲ長崎控訴院ニ委任ス

理　由

抗告論旨第二點ハ長崎米穀商同業組合員ハ前項ノ如ク居商ヲ以テ組織セラレシニ依リ

「假令居商ト云フハ認可條件ノ一タラサルモノ」又今回モ同様ニ付重要物産同業組合法第四條ニ「組合員ト同一ノ業ヲ營ム」トアル組合員ナルモノハ米穀ノ居商ナラサル可ラス從テ抗告人ノ如ク居商者ニ非スシテ行商ナルモノハ長崎米穀商同業組合ノ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ニ非ラサルナリ然ルニ原籍カ組合員ノ性格ヲ輕視シ抗告人ヲ以テ組合員ト同一ノ性格ヲ有スル者トシ重要物産同業組合法ニ問擬セシハ抗告人ニ於テ法則ヲ不當ニ適用セシ違法ニアリト言フニ在リ

因テ案スルニ重要物産同業組合法第四條第一項ニハ「同業組合設置ノ地區內ニ於テ組員合ト同一ノ業ヲ營ム者ハ其ノ組合ニ加入スヘシ」トアリ此ニ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者トハ果シテ如何ナルモノヲ意味スルヤ是レ本件ニ於ケル重要ナル論點ナリ審案スルニ同法第三條第一項ニハ「同業組合ヲ設置セントスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區內ノ同業者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ」トアリ同業中地區內ノ同業者トアルハ其ノ地區內ニ營業所ヲ有シ同一ノ營業ヲ爲ス者ヲ言フモノナルコトハ文辭上普通ノ解釋ナリ而シテ前示第四條第一項

ハ組合ノ設置ニ與カラサリシ者ヲシテ其ノ組合ニ加入セシメン事ヲ目的トスルモノナルカ故ニ是亦組合員ト同シク其ノ地區內ニ營業所ヲ有シ之ト同一ノ營業所ヲ有スル者ヲ意味スルモノト解スルヲ至當トシ他ニ營業所ヲ有シ隨時地區內ニ來リテ組合員ト同一營業品ノ行商ヲ爲ス者ノ如キハ其ノ中ニ包含セサルモノト爲ササルヘカラス尙組合設置ノ方法ニ付考フルニ組合員タルヘキモノハ發起人ノ通知ニ依リ組合ノ設置ニ關與スルヲ得ル事ハ重要物產同業組合法施行規則第四條ノ規定ニ照シ明瞭ナリ然ルニ設置地區內ニ營業所ヲ有セサル前示行商ノ如キハ其ノ出商入不定ニシテ其ノ人員ノ如キモ之ヲ組合設置ニ必要ナル三分ノ二以上ノ同業者中ニ加算スル事ヲ得ス然モ之ヲ設置者中ニ加ヘスシテ尙組合加入ヲ命スルノ不當ナルコト多言ヲ要セス故ニコノ如キモノヲシテ同業組合ニ加入セシムルハ法律ノ豫期セサル所ナリト言ハサルヘカラス之ヲ要スルニ同業組合ヲ組織スル者ハ其ノ地區內ニ營業所ヲ有シ同一ノ營業ヲ爲ス者タル事ヲ要シ然ラサル者ハ之ニ加入スル權利義務ナキモノト本件ニ於テ抗告人等カ長崎米穀商同業組合ノ地區內ニ於テ米穀ノ行商ヲ爲スモノナル事ニ原決定ノ判示スル所ナリト雖

モ原院ハ抗告人等カ在地區内ニ營業所ヲ有スルヤ否ヤニ付事實ヲ確定スルコトナク重要物産同業組合法第四條第一項ヲ以テ苟モ組合設置ノ地區内ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ爲ス者ハ其ノ地區内ニ在住シ若ハ營業所ヲ有スルト否ヲ問ハス其ノ居商タルト行商タルトヲ區別セス等シク之ヲ適用スヘキモノト解シ該組合ニ加入セサル抗吾人等ニ對シ過料ノ制裁ヲ付スヘキモノト判示シタリ是法律ノ解釋ヲアヤマリテ之ヲ適用シタル不法アルモノニシテ廢棄ヲ免レス他ノ抗告論旨ニ付說明ヲナスノ要ナリ本件抗告ハ其ノ理由アリ唯抗告人カ組合設置ノ地區内ニ營業所ヲ有スルヤ否ハ事實上ノ問題ニシテ單ニ官公署ニ對スル屆出等ノミニ依リテ決定セラルヘキモノニ在ラス從テ他ヨリ組合設置ノ地區内ニ來リ行商ヲ爲ス者ト雖モ其ノ營業ノ狀態ニ依リ該地區内ニ事實上營業所ヲ有スル者ト認メ得ヘキ場合ナシトセス此ノ如キ者ハ其ノ名ノ行商タルニカカハラス尙組合ニ加入スヘキ義務アルモノニシテ其ノ判定ハ營業所ノ有無ニ付事實ノ確定ヲ俟タサルヘカラス

因テ重要物産同業組合法第十九條第二項非訟事件手續法第二十四條第二十五條民事訴訟法第四百六十六條ニ則リ原院ヲシテ更ニ事實ヲ審理シ裁判ヲ爲サシムルヲ相當ト認メ前記ノ如ク決定シタリ

四〇　同業組合役員ノ任期ハ認可ノ翌日ヨリ起算スヘキモノトス（大正二年四月第一二三四號工務局長回答）

四一　同業組合法第四條但書ニ所謂營業上特別ノ狀況トハ組合ニ加入スルヲ不必要又ハ不適當トスル營業上ノ特殊ノ事情ヲ指シ各個ノ場合ニ就キ具體的ニ裁定スルヲ要シ一般抽象的ニ其ノ標準ヲ定ムルヲ得ス（大正二年八月省第八七九號商工局長回答）

四二　販賣組合ハ生產者カ個々販賣ノ不利ヲサクル爲メ共同セルモノニシテ商人ニ非サルカ故ニ商人ノミヲ以テ組織スル同業組合ニ加入セシムルノ必要ナシ（大正三年三月商第一三八九號商務局長回答）

四三　二府縣以上ニ亘ル準則組合ヲ設立センントスルトキハ大臣ノ認可ヲ受クヘキモノトス（明治四十三年三月商第一三八九號商務局長回答）

四四　地方廳ノ命令ヲ以テ組合員ニ非サルモノニ對シ組合ノ檢查ヲ强制スルハ穩當ナラス（大正二年四月商第二三六八號商務局長回答）（參照）同業組合法第十條

四五　異種類ノ同業組合ハ聯合會ヲ組織スルコトヲ得ス（明治四十三年一月商第九〇三六號商務局長回答）

同業組合聯合會ハ組合法第五條ニ示スカ如ク組合相互ノ氣脈ヲ通シ其ノ目的ヲ達スル爲メニ設置スルモノナルカ故ニ之ヲ法ノ精神ニ照シ組合本來ノ目的ニ徵スルモ同種類ノ物產ニ關スル組合ニ非サレハ聯合會ヲ設置スル事ヲ得ス

四六　個人ノ支配人ト雖モ支配人登記セラレタル者ハ組合役員タル主人ニ代リ其ノ職務ヲ行フトコヲ妨ケス（明治四十五年七月商第一三三八號商務局長通牒）

四七　登記シタル支配人以外ノ使用人ハ主人ニ代リ組合役員タル職務ヲ行フコトヲ得ス（同　上）

四八　法人又ハ個人カ同業組合ノ代議員トナリタル場合ニ於テ登記シタル支配人ハ主人ニ代リ代議員ノ職務ヲ行フコトヲ得（大正三年四月省議決定）

四九　同業組合法第四條但書ニ依ル加入除外ノ實例（明治四十一年五月）

地區ヲ隣接シテ甲乙二種類ノ組合アリ甲組合ノ組合員ハ從來乙組合地區內ノ農家ノ子女ニ木綿ノ賃織ヲ爲サシメ來リタル處乙組合ハ賃織ヲ依賴スル甲組合員ニ對シ乙組合ノ地區內ニ於テ乙組合員ト同一ノ業ヲ營ムモノトシ乙組合ニ加入方ヲ催告シタリ然レトモ甲組合員ハ乙組合ニ何等ノ關係ヲ有セサル農家ノ子女ニ賃織セシムルノミニシテ同地區內ニ營業所又ハ製造所ヲ有スル者ニ在ラス甲組合ノ地區內ニ於テ原料ノ仕入、染色及機織ヲ爲シテ之ヲ出機シ其ノ織成ノ日ヲ見計ヒ各戶ヲ巡回シテ製品ヲ蒐集シ自己ノ營業所ニ持チ歸リ更ニ漂白、糊張等製品トシテ一切ノ整理加工ヲ施シ甲組合ノ證票ヲ附シ且ツ甲組合ノ檢查ヲ經テ之ヲ市場ニ販賣スルモノナルカ故ニ乙組合地區內ニ於テ乙組合ト同一ノ業ヲ營ムモノニ非ストシ加入ノ催告ヲ拒絕シタリ然ルニ乙組合ハ右ノ行爲ヲ以テ組合法第四條ノ違犯ナリトシテ管轄裁判所ニ通知シ審理ノ結果何レモ過料ノ處分ヲ受ケタリ依ツテ控訴院大審院ニ抗告ノ申立ヲ爲シタルモ遂ニ棄却セラレタリ大審院ノ抗告棄却ニ依リテ玆ニ裁判ハ確定シ甲組合員ハ乙組合ニ加入ノ義務ヲ生シタリ若シ夫レ一製造業者ニシテ二個ノ組合ニ加入シ二個ノ組合ノ定款ヲ遵守シ二個ノ組合ノ經費ヲ負擔セサルヲ得サルニ至ラハ定款規定ノ同一ナラサル結果、染色、製織、尺巾ニ著シキ差異ヲ生シ適從スヘキ所ヲ知ラサルノミナラス二重ノ經費負擔ハ勢

ヒ製品ノ價格ヲ增大シ市場ニ於ケル競爭ニタヘサラシムルニ至ルハ甚タ明瞭ナ

今觀察ノ方面ヲ變ヘテ之ヲ製品取締ノ上ヨリ見ルニ甲組合カ製品檢査ヲ施行シテ粗製濫造ノ弊ヲ防キ組合員共同ノ利益ヲ增進セムト欲セハ苟モ地區內製產品トシテ市場ニ取引セラルル限リ其ノ織上地ノ如何ヲ問ハス同一規格ノ下ニ統一シ同樣ノ檢束ヲ加フルニ非サレハ能ク其ノ目的ヲ達スル能ハサルハ言ヲ俟タサル所ニシテ若シ之ヲ乙組合ノ取締ニ一任スルモノト假定センカ狡猾ナル製造業者ハ名ヲ乙組合ノ取締ニ籍リテ嚴格ナル甲組合ノ檢查ノ羈絆ヲ脫シ不良ノ染料不良ノ染色ヲ施シ或ハ緯打數ヲ減シ尺巾ヲ減縮シ甲組合カ多年辛苦經營信用ノ昻上ト聲價ノ發揚ニツトメ專ラ斯業改正ノタメニ竭シタル勞力ハ全ク破壞セラルルニ至ルヘシ蠶テ乙組合ノ利害ヲ見ルニ唯僅ニ製織賃金ニ少額ノ差異アルノ外製品ノ取締上ニ將又信用聲價ノ維持上ニ何等ノ影響アル事ナシ以上ノ事實ハ同業組合法第四條但書ニ所謂營業上特別ノ情況アルモノトイフヘシ

五〇　同業組合法第四條ニ依ル加入除外ノ實例（大正五年六月第八〇八號山林局長通牒）

某鑛山主ハ木炭同業組合ノ地區內ニ於テ組合ト同樣木炭ノ製造ヲ爲スモ其ノ大部分ハ目下鑛業ノ用ニ供シ殘餘ハ山間物資供給不便ノ地ニ在住スル鑛山使用人及鑛山ニ密接ノ關係ヲ有スルモノニ實費ヲ以テ頒與スルモ固ヨリ營利ノ目的ヲ有セザルノミナラス事實上ニ於テモ所得調查會ノ公認スルカ如ク些ノ利益ヲ得タルモノニ在ラス殊ニ製品ハ金屬精練ノ用ニ供スル爲剛質ヲ要シ從來銳意改善ニツトメタル結果同組合員ノ製品ニ比シハルカニ良質ナルヲ以テ組合ノ取締ヲ受ケサルモ地方製產品ノ聲價ヲキキツケ信用ヲ害スヘキ虞ナシ以上ノ事實ハ同業組合法第四條但書ニ所謂營業上特別ノ情況ニ在ルモノト認ム

五一　同業組合法第四條ニ依ル加入除外ノ實例（大正五年十月商工第一一五三八號商工局長通牒）

織物製造業者、賣買業者及染色業者ヲ以テ組織スル某織物同業組合地區內ニ於テ加入除外申請書ハ小倉織服地ノ製織ヲ業トスルカ故ニ理論上組合ニ加入ノ義務ヲ有スルモ小倉織服地ハ除外申請者ノミ之ヲ製織シ他ニ同業者ハ勿論之ト類似ノ織物ヲ製造スル者無ク殊ニ原糸、染色法、幅長、仕立方等凡テ他ノ織物ト製織ノ方法ヲ異ニシ且ツ申請人ハ居常製品ノ改善發達ニ努メツツアルガ故ニ組合ニ於テ其ノ取締ヲ爲スノ必要ナ

シ

以上ノ事實ハ同業組合法第四條但書ニ所謂營業上特別ノ情況ニ在ルモノト謂フヲ得ヘシ

五二　二府縣以上ヲ地區トスル同業組合ノ發起認可ハ主タル事務所ヲ置カントスル地ヲ管轄スル地方長官ニ對シ申請スヘキモノトス（大正五年七月商第九四一八號商工局長回答）

五三　組合ノ會計役ハ評議員ヲ相兼ヌルコト得ス（大正六年二月商第二二〇二號次官通牒）

會計事務ノ監督ハ評議員ノ主要ナル任務ニ屬ス然ルニ若シ會計役ト評議員ト相兼ヌルトキハ監督者被監督者同一人ニ歸スルガ故ニ甚ダ不條理ノ結果ヲ生ス

五四　組長ハ評議員會ノ議長タルコトヲ得ス（同　上）

評議員會ノ主タル職務權限ハ組長ノ施行シタル業務ノ審査及監督ニシテ此等ノ事項ヲ議決スルニ當リ可否同數ナルトキハ被監督者自ラ之ヲ決スル事トナリ

評議員會ノ監督ハ行ハレ難キ結果ヲ生スルノ虞アルガ故ニ評議員ノ議長ハ評議員中ヨリ互選セシムルヲ適當トス

五五　分工場ノ組合加入義務（大正六年二月商局第九七號工務課長回答）

分工場ニ於テ實際營業取引ヲ爲サス一ニ本店ノ指揮ニ依リ行動スル場合ハ本店所在地ノ同業組合ノミニ加入スレハ足ル然レドモ分工場ニ於テ事實上營業取引ヲ爲ス場合ハ分工場所在地ノ組合ニモ亦加入ノ義務アルモノトス（大正六年四月商第一九七四號商工局長通牒）

五六　組合ノ證票ヲ僞造シ若ハ變造シタル者又ハ不正ニ使用シタル者ハ組合法ニ依リ處罰セラルルカ故ニ此ノ行爲ニ對シ更ニ組合ニ於テ過怠金ヲ科スルハ不穩當ナリ（同　上）

五七　同業組合ノ證紙、證票、看板ハ組員法第二十條ニ所謂證票ニ該當スルモノトス（大正六年四月商第一八七一〇號商工局長通牒）

五八　破產ノ宣告ノミニ依リテ當然組合員タル資格消滅スルモノニ在ラス

破產ノ宣告ヲ受クルモ破產者ハ必スシモ營業ヲ爲ス能ハサルモノニ非サルガ故ニ破產

宣告ト同時ニ當然組合員タル資格消滅スヘキモノニ非ス然レトモ破產宣告ノ結果事實上營業ヲ爲ス能ハスシテ營業ノ廢止ト見ルヘキ場合ニ於テハ營業廢止ノ事由ニ因リ組合員タル資格ヲ失フヘキモノトス

五九　重要物產ノ生產、製造、販賣ニ關スル營業者ト接密ノ關係ヲ有スル營業者ノミヲ以テハ同業組合ヲ組織スルコトヲ得ス（大正六年六月商第四五五號工務課長回答）

六〇　精米業者ハ廣義ニ於ケル製造業者ナリト雖精米業者ノミヲ以テ組合ヲ組織スヘキ必要アリヤ否ハ各場合ニ依リ之ヲ決定スヘキモノトス（大正六年六月商第二七〇九號商工局長回答）

六一　組合員ノ選擧權行使ノ制限ヲ認メス（同前回答追書）

六二　選擧取締上選擧人名簿ヲ設ケ之ニ記載無キモノヲシテ選擧ヲ爲サシメサルモ妨ナシ（同前追書）

六三　代議員ト評議員ト相兼ヌルモ妨ケナシ（大正六年六月商第九二一五號商工局長回答）

代議員ハ組合ノ議決機關ニシテ評議員ハ組合會ニ於テ決議シタル事項ノ執行ノ適否ヲ監査スヘキ機關ナルカ故ニ之ヲ兼ヌルモ支障ナシ

六四　組合會ノ設アル組合ニ於テ之ニ對立スヘキ總會ヲ置クコトヲ得ザルモ經費ノ決算、業務ノ成績ノ公示又ハ役員、代議員ノ選擧其ノ他組合員間ノ意志ノ疎通ヲ圖ル爲組合員ノ總集會ノ制ヲ設クルハ支障ナシ（大正六年商第八三六四號商工局長回答）

六五　大正五年告示第九十號指定重要輸出品ノ種類中ノ金屬製品ニハ製針ヲモ包含ス（大正六年七月商局第八二二號商工局長回答參照）組合法第十條ノ四

六六　經費ノ滯納アリトスルモ役員、代議員ノ選擧權行使ヲ制限スルコトヲ得ス（大正六年九月商第四九〇〇號商工局長回答）

役員及代議員ノ選擧權ハ組合員タルカ故ニ當然行使スヘキ權利ニシテ假令組合經費ヲ滯納シタル場合ト雖モ權利行使ヲ制限スヘキモノニ在ラス經費ノ滯納ニ對シテハ當然ノ過怠金ヲ課スルヲ以テ足ル

六七　同業組合準則ニ所謂農商工ノ業ニ從事スルモノトハ湯屋業、料理屋業、理髮業、大工、左官其ノ他農商工ノ業ニ從事スル者（職工ヲ除ク）ハ總テ之ヲ包含ス、然レトモ

此等ノ同業者カ組合ヲ組織スルノ適否ハ各場合ニ在リテ決定スルヲ要ス

六八　準則組合ハ組合加入ヲ強制セサルカ故ニ地方長官ニ於テ特ニ弊害ナシト認ムル場合ニ於テハ價格又ハ賃金ノ協定ヲ認容スルモ支障ナシ　（大正六年九月商第一〇三四號商工局長回答及通牒）

六九　施行規則第一條組合名稱ノ違反者ニ對シ地方長官ハ地方官官制第四條及行政施行法第五條ニ依リ處分ヲナスコトヲ得　（同　前）

七〇　大正六年六月三十日迄ニ變更ヲナササルモ組合ノ定款ハ有效ニシテ其ノ定款ニ基キナシタル組合ノ行爲モ亦有效ナリ　（大正五年九月商第八六四號商工局長回答）

施行規則第五十四條ハ本則施行後一年內ニ定款變更ノ手續ヲナスヘキ事ヲ命シタル規定ニシテ此ノ規定ニ從ヒ變更ヲナササル組合ニ對シテハ監督官廳ニ於テ監督權ヲ行使シ得ヘキハ勿論ナリト雖モ假令一年內ニ變更ヲナササルモ從前ノ定款ハ當然效力ヲ失フヘキモノニ非ス從テ此ノ定款ニ基キナシタル組合ノ行爲ハ有效ナリ　（大正七年二月省議決定）

七一　凡ソ會議ハ議員相會シテ相互ニ意見ヲ交換スルヲ以テ本則トス故ニ特別ノ規定ナキ限リ書面表決之ヲ許ササルモノト解スルヲ至當トス　（大正六年一月商第一四五八六號商工局長回答）

七二　緊急ノ必要ニ依リ組合會ヲ招集スヘキイトマナキ時又ハ一定金額以內ノ豫算ノ變更ハ之ヲ評議員會ニ委任スル旨ノ定款規定ハ理論上違法ニ非ス　（同　前）

經費豫算ハ組合會又ハ總會ニ於テ議定スルヲ普通トスルモ組合法第十一條ハ經費豫算及徵收法各其定款ノ規定ニ從ヒ之ヲ議定スヘキ旨ヲ規定スルカ故ニ必スシモ組合會又ハ總會ノ議定事項タル事ヲ要求シタルモノニ非ス從テ定款ヲ以テ評議員會ノ權限ニ屬セシムルモ敢テ違法ニ非スト雖モ之ヲ不穩當ニ見ルヲ當レリトス然レトモ組合事業遂行上緊急必要ノ場合ヲ特定シテ之ヲ委任スル運用必スシモ不可ナリト謂フヘカラス例ヘハ緊急必要ノ場合ニ事業費ヲ增加スルタメ豫算ヲ變更スルカ如キ其ノ一例ナリトス

七三　組合地區內ニ店舖又ハ事務所ヲ有セスト雖モ繼續シテ組合員ト同一ノ營業ヲ爲ストキハ其ノ組合ニ加入スヘキ義務アルモノトス　（大正五年十一月商第一四七二〇號商工局長回答）

七四　營業者ノ使用人ハ使用人トシテ組合加入ノ義務ナシ　（同　前）

七五　從前重要物產同業組合及聯合會ニ關シ發シタル內訓及通牒類ハ凡テ之ヲ廢止ス

七六　定款中ニ一定事項ニ付テハ書面決議ヲ爲サシメサル旨ノ規定ヲ設ケシムルハ妨ナキモ其ノ事項ハ輕微ナラサルモノナルコトヲ必要トス（大正七年九月商第一五八四五號商工局長回答）

定款及豫算ノ變更ハ重大事項ナリトシテ書面決議ヲ爲サシメサルノ規定ヲ設クルトキハ法令ノ改廢若ハ監督官廳ノ指示ニ依ル當然ノ變更ヲ要スヘキ場合又ハ組合事務所位置ノ變更若ハ小額ノ豫算ヲ增減スル場合ノ如キ輕易ナル事項ニ對シテモ書面決議ヲ爲シ得サルニ至リ改正規則ノ趣旨ヲ沒却スル故ニ定款ノ變更ニ在リテハ第何條、豫算ニ在リテハ何圓以上ノ金額ノ增減ト謂フカ如ク具體的ニ定メセシムルヲ要ス（大正五年六月商第八九九九號次官通牒）

七七　白米賣額標準一定ニ關スル規定ハ制裁規定ヲ設ケサル限リ之ヲ定款中ニ規定スルモ差支ナシ（大正八年一月商第二四九七四號商工局長依命通牒）

七八　代議員ニ關スル定款規定ヲ變更セムトスル場合ハ現任代議員中退任者ヲ定ムヘキ方法ヲモ併セ規定スルヲ要ス（大正八年十月工局第八二號商工局長回答）

七九　組合地區ノ擴張ノ場合ニ於テ編入セサルヘキ地區内ニ組合員トナルヘキモノノ現存セサルトキハ之ニ關スル定款ノ變更ハ認可スヘカラサルモノトス（大正八年七月工第四五一號工務局長回答）

八〇　同業組合法第四條

同業組合法第四條中「同業組合設置ノ地區内ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ」ノ意義ニ關シテハ「組合地區内ニ店舗又ハ事務所ヲ有セスト雖モ繼續シテ組合員ト同一ノ營業ヲ爲ストキハ其ノ組合ニ加入スヘキ義務アルモノトス（大正五年十一月商第一四七二〇號商工局長回答）ノ方針ヲ取リ同一地區内ニ於テ營業ヲ爲スヤ否ヤノ事實ニ理由ヲ求メ加入ノ義務ヲ認メ來リシモノニテ「店舗ノ有無」ヲ其ノ決定要件トナサス

然レ共其ノ組合ノ統制ニ服セシムベキ以上ハ事實上ニ於テ地區內ニ營業上ノ住所ト認ムヘキ程度ノ關係ヲ有スルコトヲ必要トスベシ而シテ本件ニ關スル明治四十五年大審院民事部判決モ亦略之ト同趣旨ノ意見ナリ

而シテ本改正案ノ趣旨亦此處ニ存スル如クナルヲ以テ強イテ之ヲ改ムルノ必要ヲ認メス却ツテ店舖ノ有無ニ關セスト云フガ如キ字句ヲ挿入スルトキハ之ヲ狹義ニ解スルニ於テハ文字解釋上紛爭ヲ惹起スル惧アルノミナラス之ヲ廣義ニ解スレバ地區內ニ於ケル營業關係極メテ薄弱不確定ニシテ之ニ組合加入ノ義務ヲ強要スル必要ナキモノヲ拘束セントスルガ如キ誤解ヲ招キ組合ノ目的達成上益無クシテ寧ロ弊害ヲ生スヘキ虞アルヲ以テ本條ハ之ヲ改正セサルヲ可トス

第四條但書

「公益ノ爲營利ヲ目的トセサル團體」ハ同業組合法第一條及第四條本文ヨリシテ加入義務ナキモノニシテ特ニ明記スル必要ナキノミナラス營業上ノ弊害ヲ矯正スル組合ニ對シ何等ノ例外ナク加入ヲ強制スルハ產業上ノ實情ニ適セザル場合ヲ生スルヲ以テ現在ノ但書ハ依然存置ノ必要アリ依テ改正ニハ同意シ難シ

2　第六條第二項

改正案ノ如キ漠タル範圍ニ於テ營利事業ヲ認ムル時ハ主務大臣ノ認可ヲ條件ト爲スモ猶結局ニ於テ危險負擔ノ問題ヲ生スベク加入強制ノ本質ニ反スルヲ以テ同意シ難シ

八一　重要物產同業組合法ニ關スル件（昭和二年二月九日商第三三九號商工省商務局長回答）

昭和二年一月十二日附商第一九三〇號ヲ以テ再照會有之候處右ハ左記ニ據リ御了知相成此度段及回答候也

記

其ノ產業組合ニシテ仲買人ト同一ノ態樣ノ販賣ヲ經營スル場合ニ於テハ仲買人ノ組織スル同業組合ニ加入スヘキモノトス

八二　同業組合法ニ關スル其ノ他ノ判例要旨

1.　特定ノ人ガ事實證明用トシテ自己ヲ表證スル爲ニ其ノ氏名名稱ヲ印記スルモノハ其ノ目的カ文書ニ押捺スルニ在ルト產物商品書籍什物等ニ押捺スルニ在ルトヲ問ハス皆

之ヲ印章ト認ムベキモノニシテ記號ト爲スベキニ非ス

而シテ重要物産同業組合法第二十條ニ所謂同業組合ノ檢査證トハ同業組合ノ印章ニ該當セザル檢査ノ證標記號ヲ指稱スルモノト解スベキカ故ニ或物産ノ檢査ガ特定ノ同業組合ニ依リテ行ハレ合格シタル事實ヲ裝ハンガ爲ニ該組合ノ名稱ヲ表示シタル檢印ヲ僞造使用スル行爲ハ法第百六十七條ノ印章僞造使用罪ヲ構成シ重要物産同業組合法第二十條所定ノ檢査證僞造使用罪ヲ構成セザルコト論ヲ俟タズ原判決ニ依レバ被告ハ自己ノ營業品タル不良ノ秩父銘仙縞カ秩父絹織物同業組合ノ檢査ヲ經テ合格シタルコトヲ裝ハンガ爲ニ「秩父絹織物同業組合檢印」ト表記シタル同組合ノ檢印ヲ僞造使用シタルモノナレバ原判決ノ所論擬律ハ正當ニシテ本論旨ハ理由ナシ（大正十二年れ一〇九〇號大審院判決）

事案ハ某ガ「何々組合檢印」トアル檢査證印ヲ僞記シタルモノニ依リ被告辯護人ハ本件ヲ特別法犯卽チ組合法二十條違反トシ上告シタルモノノ如シ然ルニ第二審及上告審ハ組合法二十條ノ證票檢査證ハ印章ニ非サル標示記號ト解シタルモノナリ

印章僞造行使ノ罪ハ刑法ニ定ムル所、同一犯罪ニ付テ更ニ同業組合法中ニ罰則ヲ設クルノ要ナシ公務所ノ記號僞造ハ刑法一六六條ニヨリテ處罰ス、私人ノ記號僞造ニ付テハ罰則ナシ

同業組合ガ公務所ナラバ印章、記號ニツナガラ僞造ヲ罰スルモ公務所ニ非ストスレバ記號僞造ハ刑法ノ領域ニ屬セス、當時組合ガ公、私何レニ屬スルカ明ナラス、假リニ公務所ニ非ストスルモ組合檢査ノ公正ト信用トヲ保持スルガ爲ニ嚴重ナル取締ヲ加フルコトヲ必要トシ、刑法ノ領域ニ屬セサル私人ノ記號標示ノ僞造行使ヲ罰スル趣旨ヲ以テ此ノ特別犯ヲ規定シタルモノト解スルヲ正當トシ判旨ニ贊ス

2　物品陳列販賣業ナルモノハ營業ノ全體ヨリ觀察シタル稱呼ニ外ナラサレバ之ヲ以テ個別的販賣業ヲ營ムモノニ非スト云フヲ得ス

從テ該個別的營業ニ對シ農商務大臣ガ加入ノ必要ナシト認メタル場合ノ外重要物産同業組合法ニ依リ同業組合ニ加入スル責務アルモノトス（四四年大審院判決）

事案ハ商工省當路ノ頭痛原因タルデパートメントストアーノ組合加入義務ノ問題ニシテ本業態ハ個別營業ノ集合ニ非ス數十種數百種ノ商品ノ統一的販賣法ナルガ故ニ個々

ノ營業者トハ業態ヲ異ニス從ツテ同業者ニ非スト抗辯スルモノノ如シ

然レトモ二以上ノ商品ヲ同一店舖ニ於テ販賣スルモノト數百種ノ商品ヲ一店舖ニ於テ販賣スルトハ量ノ差異ニシテ質ノ同一ヲ害スルコトナシ專業者ノミヲ組合員トスル場合ニ於テハ勿論加入義務ナカランモ此ノ制限ナキ場合ニハ同一ノ業ヲ營ムモノト云フヲ妥當トス判旨ニ贊ス

3　法人ガ同業組合ニ加入スル義務アル場合ニ於テ其ノ機關ガ組合加入ノ手續ヲ盡ササルハ卽チ其ノ法人ガ組合加入ノ義務ヲ履行セサルニ外ナラサルヲ以テ重要物產同業組合法第十九條ノ規定ニ從ヒ過料ニ處セラルヘキモノトス（四四年大審院判決）

4　重要物產同業組合設置ノ地區內ニ於テ組合員ト同一ノ營業ヲ爲ス者ハ民法上ノ組合組織ニ依リテ營業ヲ爲スト否トニ拘ラス各自其ノ組合ニ加入スヘキ義務ヲ有スルモノトス（四四年判決）

5　重要物產同業組合ニ加入スルハ組合ノ業務執行員ノ代表權限內ニ在ル事項ニ非ス從テ組合ノ業務執行員タル者ガ之ニ加入シタレハトテ他ノ組合員タル者ガ重要物產同業組合法第四條所定ノ義務ヲ盡シタルモノト云フヲ得ス（四四年判決）

6　同業組合ニ加入スル義務ヲ有スル者ハ組合員ト同シク其ノ地區內ニ營業所ヲ有シ之ト同一ノ營業ヲ爲スモノタルコトヲ要スルモノニシテ他ニ營業所ヲ有シ隨時其ノ地區內ニ來リテ組合員ト同一營業品ノ行商ヲ爲ス者ノ如キハ之ニ加入スルノ權利義務ナキモノトス（大正元年判決）

7　重要物產同業組合法ニ依リテ設置シタル同業組合アル地區內ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ其ノ自然人タルト法人タルトノ別ナク又其ノ營業方法ノ異同ヲ問ハス農商務大臣カ加入ノ必要ナキモノト認メサル限リ其ノ組合ニ加入スル義務アルモノトス（大正元年判決）

8　重要物產同業組合法ニヨリテ成立スル同業組合ハ同法上之ヲ國家ノ機關ナリト認メタルニ規定ノ存スルナキヲ以テ該組合ハ公法人ニ非ス從テ組合員ニ對スル組合經費及過怠金ノ徵收ニ付司法裁判所ニ其ノ救濟ヲ求メ得ヘキモノトス（大正三年判決）

9　重要物產同業組合法ニヨル同業組合アル地區內ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ

組合ノ設置ニ與ラザル者ト雖農商務大臣ニ於テ加入ノ必要ナシト認メサル限リ組合加入ノ義務アルモノトス（大正四年判決）

10　重要物産同業組合ヲ設置スルニハ法定ノ同意者ガ創立總會ヲ開キ定款ヲ議決シ及農商務大臣之ニ認可ヲ與フルコトヲ要スルモノナレハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケサル同業組合ノ成立スルコトヲ得サルハ勿論ナリト雖其ノ前提要件ヲ缺ク以上ハ農商務大臣ノ認可アリタル一事ニ因リテ同業組合ハ成立スヘキモノニ非ス（大正六年判決）

11　重要物産同業組合法施行規則第二十四條第四號ニ於テ評議員會ハ同條第一號乃至第三號ニ列記スルモノノ外定款ノ規定スル職務權限ヲ存スル旨ヲ定メタルガ故ニ「酒類ノ階級及價格標準ヲ定ムルコト」ヲ以テ評議員會ノ職務權限ニ屬セシメタル定款ノ規定ハ重要物産同業組合法ニ抵觸スルモノニ非サルヲ以テ該定款ノ規定ハ同法及其ノ施行規則ニ違背セル無效ノモノト論斷スルヲ得ス（大正九年判決）

12　同業組合ハ明治十七年農商務省達第三七號同業組合準則ニ依リ管轄官廳ノ認可ヲ得テ設立スル一ノ社團ナルモ重要物産同業組合法ノ如ク該組合ヲ法人ト爲ス旨ノ規定ナキヲ以テ權利義務ノ主體ト爲リ其ノ名ニ於テ訴訟ヲ爲スノ資格ナキモノトス（大正六年大審院判決）

13　同業組合ノ目的ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ其ノ利益ヲ增進スルニ在ルヲ以テ法人モ亦同法第四條ノ規定ニ從ヒ組合加入ノ義務アルコト極メテ瞭然タリ而シテ法人ノ機關ガ組合加入ノ手續ヲ盡ササルコトハ卽チ其ノ法人ガ組合加入ノ義務ヲ履行セサルニ他ナラス故ニ法人ト雖重要物産同業組合法第十九條ノ規定ニ從ヒ過料ニ處セラルヘキ筋合ナリトス（四四年判決）

露天賣藥商人モ組合ニ加入スヘシ

銀座、澁谷、新宿等ノ盛リ場ヤ或ハ緣日等ヲ轉々トシテ出沒スル露店賣藥請賣營業者ニ對シ組合ニ加入ヲ勸誘シタルモ言ヲ左右ニシテ加入ヲ拒ミ、アマツサエ組合ノ統制ヲミタシタル彼等一味ヲ相手取リ東京藥業同業組合ハ斷乎タル處置ヲ採ル手筈ヲ定メ先ツ以テ組合ニ加入セシムル手段トシテ東京地方裁判所ニ提訴、係爭中ナリシカ去月十一日左ノ如ク組合勝訴言渡シアリタリ

主文

被告兩名ハ各原告組合ニ對シ、加入手續ヲ爲スヘシ訴訟費用ハ被告等ノ負擔トス（昭和十一年十一月十五日東京民事地方裁判所）

組合未加入者モ協定價格ヲ嚴守セヨ

東京藥業同業組合ハ未加入者、荏原區小山町二ノ一二〇白川高太郎氏ヲ相手取リ未加入者ト雖モ組合協定價格ヲ嚴守スヘシ、ト東京地方裁判所ニ訴訴ヲ提起シタ之レニ對シテ地方裁判所ハ該訴訟ニ對シ却下ノ決定カアツタノテ更ニ控訴院ニ控訴ノ結果原決定ヲ取消シ組合價格協定目錄記載ノ價格ヨリ割引シテ販賣スヘカラスト主文ノ如ク決定シタリ

主文

原決定ヲ取消ス

相手方（假處分請求者）ハ抗告人ヨリ相手方ニ對スル組合加入手續請求ノ本案訴訟確定ニ至ル迄

一、相手方ハ前號目錄記載ノ商品ヲ全目錄記載ノ價格ヨリ割引シテ販賣スヘカラス

二、相手方ハ前項ニ違反スル價格ヲ記載シタル廣告、看板、定價表、ポスター、宣傳ビラ等ヲ掲示又ハ頒布スヘカラス（昭和十年十二月十三日東京控訴院）

昭和十四年七月七日印刷
昭和十四年七月十五日發行

不許複製

著者　小池金之助　東京市麹町區富士見町二ノ一
發行者　若月初藏　東京市神田區須田町二ノ三
印刷者　小林正雄　東京市麹町區富士見町二丁目一番地
發行所　昭和圖書株式會社　電話九段(33)一六二一番　振替東京一二二〇四番
印刷所　須田町印刷所

同業組合及準則組合
定價壹圓八拾錢
送料拾五錢

西販賣部所　大阪市東區北久太郎町四ノ一六　合資會社柳原書店　電話船場(83)四一四一番　振替大阪二二三一四番

東販賣部所　東京市神田區神保町三ノ一九　合資會社柳原書店東京出張所　電話九段(33)一九〇〇番　振替東京一一六三番

組合關係圖書

組合の事務	小池金之助著	四六判 五〇〇頁	價二・三〇 〒・一五		
組合の職員	松浦誠之著	四六判 一三〇頁	・六〇 ・六		
組合の會計監査	中瀨勝太郎著	四六判 一五〇頁	・八〇 ・一〇		
組合定款の知識	小池金之助著	四六判 二五〇頁	一・〇〇 ・一二		
協同組合の基礎知識	篠田七郎著	四六判 五〇〇頁	二・三〇 ・一五		
組合登記必携	協同組合研究會著	菊半截 一五〇頁	・七〇 ・六		
組合諸規程集	今井悠著	四六二段組 四〇〇頁	二・〇〇 ・一五		
國民健康保險組合 —醫療利用組合	協同組合研究會著	四六判 二五〇頁	一・二〇 ・一二		
同業組合及準則組合	小池金之助著	四六判 二五〇頁	一・八〇 ・一二		
商業組合の話	松浦誠之著	四六判 二二〇頁	一・二〇 ・一〇		
商業組合解說	小池金之助著	四六判 三五〇頁	一・八〇 ・一五		
商工業組合の定款 —業務規程	松浦誠之著	菊判 三五〇頁	三・二〇 ・二三		
商業組合經營事例	稻川宮雄著	四六判 三五〇頁	一・五〇 ・一五		
商業組合の新目標	東京府商業組合研究會編	四六判 二九〇頁	一・三〇 ・一二		
農事實行組合	加藤健之助著	四六判 五二〇頁	二・五〇 ・一五		
農事實行組合解說	小池金之助著	菊半截 一四〇頁	・六〇 ・六		
工業組合解說	小池金之助著	四六判 五二〇頁	二・八〇 ・一五		
戰時戰後の工業組合	川端巖著	四六判 二六〇頁	一・五〇 ・一二		
戰時體制と工業組合 —經營事例	佐野卓男著	四六判 二三〇頁	一・五〇 ・一二		

時局經濟講座（續々刊行）

戰時戰後の中小商業	井上貞藏 土屋重隆共著	四六判 四〇〇頁	二・〇〇 ・一五	
戰時戰後の商店經營	半谷眞武著	四六判 三七〇頁	一・八〇 ・一五	
戰時戰後の物價問題（上下）	岩崎松義著	四六判 上三六〇頁 下四四〇頁	上一・八〇 下二・三〇 各・一五	
戰時戰後の機械工業	小島精一著	四六判 三〇〇頁	一・五〇 ・一五	
戰時戰後の工業組合	川端巖著	四六判 二六〇頁	一・五〇 ・一二	

好評新刊書

日本經濟をどうするか	河合良成著	四六判 三五〇頁	一・八〇 ・一五	
ロックフエラアー人及その事業	有川治助著	四六判 三五〇頁	一・八〇 ・一五	
商店法の話	井上貞藏著	四六判 一〇〇頁	・五〇 ・六	
百年戰爭と商業組合	松浦誠之述	四六判 五三頁	・二〇 ・三	
經濟統制下に於ける經濟團體の新展開	圓地與四松述	四六判 七四頁	・三〇 ・三	
轉業指導講座	東京商工會議所編	四六判 三五〇頁	一・五〇 ・一五	
時局經濟讀本	東京府商業組合研究會編	四六判 三五〇頁	一・五〇 ・一五	
物價統制大綱讀本	岩崎松義著	四六判 二五〇頁	一・二〇 ・一二	
物價問答	半谷眞武著	四六判 二五〇頁	一・二〇 ・一二	

時局經濟講座

講座内容及執筆者　（毎月三冊刊行豫定）

1、	戰時戰後の工業組合（既刊）	工業組合中央會東京支部理事	川端巖著
2、	戰時戰後の商店經營（既刊）	中外商業新報商店課長	半谷眞武著
3、	戰時戰後の物價問題（既刊）	商工事務官	岩崎松義著
4、	戰時戰後の金融問題	日本興業銀行調査課長	工藤昭四郎著
5、	戰時戰後の中小商業（既刊）	商學士 日本大學講師	井上貞蔵共著 土屋重陸
7、	戰時戰後の商業組合	東京帝大講師 拓殖大學教授 經濟學博士	永雄策郎著
6、	戰時戰後の移民問題	東京府商業組合研究會 主事	松浦誠之著
8、	戰時戰後の産業組合	産業組合中央會 主事	宮城孝治著
9、	戰時戰後の貿易組合	貿易組合中央會 常任理事	淺間龍藏著
10、	戰時戰後の纖維工業	エコノミスト編輯次長	平尾彌五郎著
11、	戰時戰後の工場經營（既刊）	東京工大 拓殖大學 講師 教授	川西正鑑著
12、	戰時戰後の機械工業	小島經濟研究所長	小島精一著
13、	戰時戰後の鐵鋼業	小島經濟研究所長	小島精一著
14、	戰時戰後の中小工業	慶應大學教授	園乾治著
15、	戰時戰後の化學工業	理化學興業 取締役	大河内儁哲著
16、	戰時戰後の炭鑛業	昭和石炭統制課長	堀久保正治著

775
52